

Hokkaido University News

北大時報

令和4年

2

No. 815 February 2022

**大学入学共通テストの実施
本学が「橋渡し研究支援機関」に認定
北海道知事と道内国立大学学長との意見交換会を開催**



全学ニュース

- 1 大学入学共通テストの実施
- 2 北海道大学一般選抜の志願状況
- 3 フロンティア入試Type I 最終合格者の発表
- 3 国際総合入試合格者の発表
- 4 本学が「橋渡し研究支援機関」に認定
- 4 北海道知事と道内国立大学学長との意見交換会を開催
- 5 第9回 定例記者会見を開催
- 6 総長記者懇談会を開催
- 7 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 旭川東高校、北海高校へ向けて3名の研究者が講義を実施
- 8 北大フロンティア基金
- 10 JA北海道厚生農業協同組合連合会から道内産農畜産物が贈呈
- 11 第24回北海道大学－ソウル大学校ジョイントシンポジウム
- 17 RITARU COFFEE × 北海道大学 オリジナル焙製珈琲「アノトキ」を開発 ～学内試飲会を開催～
- 18 「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」制定記念講演会を開催
- 20 博士人材と企業の情報交換会 第48回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催



北海道知事と道内国立大学学長との意見交換会を開催



総長記者懇談会を開催

部局ニュース

- 21 地球環境科学研究院・環境科学院でFD研修会を開催
- 22 雨龍研究林で「森のたんけん隊」を開催

お知らせ

- 23 過半数代表候補者の決定

諸会議の開催状況 24

学内規定 25

表敬訪問 26

人事 27

訃報

- 28 名誉教授 金岡 祐一 氏
- 28 名誉教授 伊藤 和彦 氏



JA北海道厚生農業共同組合連合会から道内農畜産物が贈呈



RITARU COFFEE × 北海道大学 オリジナル焙製珈琲「アノトキ」を開発～学内試飲会を開催～



「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」制定記念講演会を開催



雨龍研究林で「森のたんけん隊」を開催

表紙：大学入学共通テストの実施（関連記事1頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景㊟ 百年記念会館（北9条西7丁目）

■全学ニュース

大学入学共通テストの実施

令和4年度の大学入学共通テストが、1月15日（土）及び16日（日）に全国一斉に実施されました。

本学においても、大学入学共通テスト実施体制により、実施本部、総務部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を設置し、本学教職員等延べ約1,200人の協力を得、平穩のうちに終了しました。

全国の志願者は、前年度より4,878人減少し、530,367人でした。

本学が担当する試験場（水産学部試験場、藤女子大学試験場を含む）の志願者数は、昨年度より217人多い4,887人で、各試験場（会場）の受験状況は次のとおりです。

このほか、本学では1月29日（土）及び30日（日）に高等教育推進機構A会場及び高等教育推進機構N会場で、本試験を受験できなかった北海道地区の受験者49人に対し、追試験を実施しました。

（学務部入試課）

令和4年度大学入学共通テスト受験状況

試験場（会場）名・志願者数	日 程 教 科	1 日 目										2 日 目								
		地理歴史、公民		国語		外国語 【筆記】		英語 【リスニング】		英語 【リスニング】 再開テスト		理科①		数学①		数学②		理科②		
		受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	受験者数	欠席者数	
北海道大学試験場	農学部会場	595	551	44	567	28	580	15	578	17	/	/	0	595	579	16	577	18	578	17
	人文・社会科学 総合教育研究棟会場	649	622	27	623	26	624	25	624	25	/	/	0	649	623	26	621	28	619	30
	理学部会場	334	227	107	275	59	289	45	284	50	/	/	251	83	288	46	262	72	275	59
	工学部会場	591	541	50	544	47	544	47	542	49	/	/	0	591	541	50	539	52	536	55
	高等教育推進機構 A会場	628	343	285	495	133	488	140	472	156	/	/	203	425	237	391	55	573	0	628
	高等教育推進機構 B会場	850	805	45	814	36	811	39	810	40	/	/	756	94	768	82	730	120	0	850
	保健科学研究所会場	375	202	173	282	93	288	87	285	90	1	0	211	164	276	99	220	155	106	269
	高等教育推進機構 N会場	10	7	3	7	3	8	2	8	2	/	/	4	6	8	2	8	2	4	6
藤女子大学試験場	500	463	37	469	31	467	33	462	38	/	/	413	87	415	85	389	111	0	500	
札幌地区 小計	4,532	3,761	771	4,076	456	4,099	433	4,065	467	1	0	1,838	2,694	3,735	797	3,401	1,131	2,118	2,414	
		83.0%	17.0%	89.9%	10.1%	90.4%	9.6%	89.7%	10.3%	/	/	40.6%	59.4%	82.4%	17.6%	75.0%	25.0%	46.7%	53.3%	
北海道大学水産学部試験場	355	316	39	325	30	331	24	331	24	/	/	65	290	326	29	324	31	290	65	
合 計	4,887	4,077	810	4,401	486	4,430	457	4,396	491	1	0	1,903	2,984	4,061	826	3,725	1,162	2,408	2,479	
		83.4%	16.6%	90.1%	9.9%	90.6%	9.4%	90.0%	10.0%	/	/	38.9%	61.1%	83.1%	16.9%	76.2%	23.8%	49.3%	50.7%	

※欠席者には当該教科を「受験しない」と申請し登録していない者も含まれる
 ※本表は、本学を試験場とする受験者の受験状況であるため、追試験の受験状況は含まない。



受験風景

北海道大学一般選抜の志願状況

令和4年度の本学一般選抜の志願者は、前期日程5,409名、後期日程4,107名、合計9,516名となり、アドミッションセンター・各部局における各種入試広報の取組等により、昨年度と比較すると895名増加し、倍率は4.1倍となりました。

入学試験日は、前期日程が2月25日（金）・26日（土）、後期日程が3月12日（土）となっています。

各学部・学科等の志願者数は、次のとおりです。

（学務部入試課）

令和4年度北海道大学一般選抜志願者数

日程	学部・学科等	募集人員	志願者数	倍率	第1段階選抜 予告倍率	前年度 志願者数	前年度 倍率	総合型・国際 総合入試の欠員	変更後の 募集人員	変更後の 倍率						
前期日程	総合入試	文系	95	349	3.7	4.0	312	3.3								
		理系	数学重点選抜群	125	410	3.3	4.0	492				3.8				
			物理重点選抜群	225	591	2.6	4.0	573				2.5				
			化学重点選抜群	226	605	2.7	4.0	550				2.4				
			生物重点選抜群	169	444	2.6	4.0	425				2.4				
			総合科学選抜群	239	691	2.9	4.0	532				2.2				
	計	984	2,741	2.8		2,572	2.5									
	学部別入試	学部別入試文学部	118	367	3.1	4.0	360	3.1								
		教育学部	20	56	2.8	4.0	66	3.3								
		法学部	140	321	2.3	4.0	348	2.5								
		経済学部	140	350	2.5	4.0	333	2.4								
		医学部	保健学科	医学科	92	315	3.4	3.5				338	3.5	5	97	3.2
				看護学専攻	60	132	2.2	5.0				119	2.0	4	64	2.1
				放射線技術科学専攻	28	73	2.6	5.0				78	2.8	5	33	2.2
				検査技術科学専攻	25	65	2.6	5.0				73	2.6	10	35	1.9
				理学療法学専攻	13	47	3.6	5.0				28	2.2	4	17	2.8
				作業療法学専攻	10	30	3.0	5.0				31	2.4	7	17	1.8
小計				136	347	2.6		329	2.3	30	166	2.1				
計	228	662	2.9		667	2.8	35	263	2.5							
歯学部	38	144	3.8	6.0	84	2.2	4	42	3.4							
獣医学部	20	90	4.5	6.0	88	4.4										
水産学部	105	329	3.1	4.0	274	2.6	14	119	2.8							
合計	1,888	5,409	2.9		5,104	2.6	53	1,941	2.8							
後期日程	学部別入試	学部別入試文学部	37	306	8.3	6.0	293	7.9								
		教育学部	10	97	9.7	10.0	86	8.6								
		法学部	40	351	8.8	6.0	356	8.9								
		経済学部	20	315	15.8	10.0	171	8.6								
		理学部	数学科	10	105	10.5	6.0	118				9.1				
			物理学科	3	81	27.0	6.0	99				9.9	4	7	11.6	
			化学科	20	156	7.8	6.0	136				5.9				
			生物科学科 生物学専修分野	10	108	10.8	6.0	73				7.3				
			生物科学科 高分子機能学専修分野	2	18	9.0	6.0	46				9.2				
			地球惑星科学科	5	70	14.0	6.0	51				10.2	1	6	11.7	
		計	50	538	10.8		523	7.9				5	55	9.8		
		薬学部	24	336	14.0	6.0	193	8.0								
		工学部	応用理工系学科	29	296	10.2		170				5.0	4	33	9.0	
			情報エレクトロニクス学科	38	280	7.4		352				9.3				
			機械知能工学科	25	331	13.2		204				6.8				
			環境社会工学科	47	378	8.0		279				5.7	4	51	7.4	
			計	139	1,285	9.2		1,005				6.7	8	147	8.7	
農学部	53	378	7.1	6.0	318	6.0										
獣医学部	15	114	7.6	6.0	80	5.3										
水産学部	50	387	7.7	6.0	348	7.0										
合計	438	4,107	9.4		3,517	7.3	13	451	9.1							
総計	2,326	9,516	4.1		8,621	3.6	66	2,392	4.0							

注1：「倍率」は、小数第2位を四捨五入。

注2：「第1段階選抜予告倍率」は、当初募集人員に対するもの。

注3：令和4年度入試から医学部保健学科（後期日程）の募集が廃止となりました。「前年度志願者数」「前年度倍率」の合計・総計は医学部保健学科（後期日程）の志願者数を含んだ数値になります。

フロンティア入試Type I 最終合格者の発表

令和4年度フロンティア入試（総合型選抜）Type I の最終合格者発表が2月15日（火）に行われ、16名が合格しました。

（学務部入試課）

令和4年度フロンティア入試最終合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	第2次選考合格者数	最終合格者数	
Type I	理学部地球惑星科学科	5	15 (3)	3.0	5 (2)	4 (1)	
	医学部 保健学科	医学科	5	9 (4)	1.8	5 (3)	0 (0)
		看護学専攻	7	16 (12)	2.3	3 (3)	3 (3)
		放射線技術科学専攻	7	12 (7)	1.7	2 (1)	2 (1)
		検査技術科学専攻	10	5 (3)	0.5	0 (0)	0 (0)
		理学療法学専攻	4	5 (1)	1.3	0 (0)	0 (0)
		作業療法学専攻	7	2 (1)	0.3	0 (0)	0 (0)
	歯学部	5	5 (1)	1.0	5 (1)	1 (0)	
	工学部	応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース)	4	-	-	-	-
		環境社会工学科 (社会基盤学コース)	4	3 (2)	0.8	1 (1)	0 (0)
水産学部	20	45 (4)	2.3	23 (2)	6 (0)		
小計		78	117 (38)	1.5	44 (13)	16 (5)	
Type II	理学部	数学科	13	50 (34)	3.8	13 (9)	13 (9)
		物理学科	14	22 (14)	1.6	10 (6)	10 (6)
		化学科	11	25 (13)	2.3	11 (7)	11 (7)
		生物科学科 (高分子機能学専修分野)	3	6 (1)	2.0	3 (1)	3 (1)
	工学部	応用理工系学科 (応用物理工学コース)	15	49 (28)	3.3	15 (9)	15 (9)
		機械知能工学科	5	18 (5)	3.6	5 (3)	5 (3)
		環境社会工学科 (環境工学コース)	5	31 (12)	6.2	5 (2)	5 (2)
小計		66	201 (107)	3.0	62 (37)	62 (37)	
計		144	318 (145)	2.2	106 (50)	78 (42)	

※ () 内の数字は、道内高校出身者で内数。

国際総合入試合格者の発表

令和4年度国際総合入試のうち、条件付合格者（国際バカロレア資格の取得を条件として合格していた者）の最終合格発表が2月15日（火）に行われ、14名が合格しました。

昨年12月7日（火）に発表された合格者と合わせ、最終合格者は15名となりました。

（学務部入試課）

令和4年度国際総合入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数 (条件付合格者含む)	最終合格者数
総合入試	文系	5	14 (9)	2.8	5 (3) [5 (3)]	5 (3)
	理系	10	18 (10)	1.8	10 (4) [9 (3)]	10 (4)
計		15	32 (19)	2.1	15 (7) [14 (6)]	15 (7)

※ () 内の数字は、女子で内数

※ [] 内の数字は、条件付合格者数で内数

本学が「橋渡し研究支援機関」に認定

12月20日（月）、本学は文部科学省より「橋渡し研究支援機関」として認定されました。

橋渡し研究支援機関とは、大学等の優れた基礎研究の成果を革新的な医薬品・医療機器等として実用化する橋渡し研究を支援するため、一定の要件を満たす機能を有する機関のことで、来年度から新設される制度で、文部科学大臣により、本学を含めて11機関が認定されました。

橋渡し研究とは、主に基礎研究の分野で生まれた新しい医学知識や革新的技術を、実際の病気の予防・診断・治療に向けて、実用化するために行う非臨床研究・臨床研究のことで、橋渡

し研究支援機関の認定に際しては、プロジェクトマネージャー、薬事担当者、臨床研究コーディネーター、データマネージャーなど20を超える専門人材の配置が必要です。また、研究シーズの発掘・育成・実用化支援や、企業とのマッチング及び企業への導出支援など、橋渡し研究を支援する体制が求められています。

本学では、「北海道大学病院医療・ヘルスサイエンス研究開発機構プロモーションユニット」（職員数135名）を拠点として、学内外の関係組織の協力のもと体制を構築しました。本学における臨床試験の届出件数などの研究実績が評価されたほか、本学が開発に

携わった医療機器がアメリカの食品医薬品局において承認を取得した実績が、まさに橋渡し研究の成果の一環であるとして高く評価され、認定を受けたものです。

橋渡し研究支援機関として認定を受けたことで、国立研究開発法人日本医療研究開発機構の委託を受けることができ、本学が橋渡し研究の研究費の配分及び申請を行うことが可能となります。

本学は橋渡し研究支援機関として、より一層、学内外の橋渡し研究の支援に取り組んでまいります。

（北海道大学病院）

北海道知事と道内国立大学学長との意見交換会を開催

1月26日（水）、北海道知事との意見交換会をオンラインで開催しました。意見交換会には、鈴木直道北海道知事、北海道内の国立大学学長のほか、令和4年4月に設置される国立大学法人北海道国立大学機構の理事長に指名された長谷山彰氏が出席しました。

寶金総長から開会の挨拶の後、鈴木北海道知事からは、令和3年10月に見直しを行った北海道総合計画について説明があり、特にカーボンニュートラルに関して、北海道において2030年までに北海道内の温室効果ガスを実質的にゼロにする「ゼロカーボン北海道」の実現にあたり、各大学に期待することとして、「市町村や企業からの相談窓口の設置」、「学生が地域の脱炭素の

取組など現場を学ぶ機会の創出」、「排出事業者としての2030年までのCO₂の50%削減」の3点について、各学長へ協力の依頼がありました。

次いで、寶金総長のほか、この日出席した、空閑良壽 室蘭工業大学学長、穴沢 眞 小樽商科大学学長、奥田 潔 帯広畜産大学学長、鈴木聡一郎 北見工業大学学長から、各大学のゼロカーボンに関連した取組や地域と連携した取組について説明がありました。

各学長の説明を踏まえ、鈴木知事からは「国からの予算獲得には、大学と地域との連携や様々な形での協力が不可欠であり、大学の発展が地域の発展、北海道の発展につながるという方向性は、ここにいる全員が同じ考えだ

と思う。北海道は厳しい中にあるが、目指すべき方向は一緒であり、北海道をみんなで元気にしていくという言葉を含言葉に、皆様と頑張っていきたい。」との発言がありました。

閉会にあたり、寶金総長から「北海道には鈴木知事の下、これだけのアカデミアが揃っているということは、北海道にとって大変な強みであり、今回の意見交換会を機に、産学官連携を北海道らしい強みとし、北海道総合計画の中に活かしていただきたいと思う。各大学も真正面から取り組みたいと思う。」との挨拶がありました。

（総務企画部総務課）



鈴木北海道知事による説明



意見交換会の様子

第9回 定例記者会見を開催

1月20日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しまし

た。吉見 宏理事・副学長（広報室長）の進行のもと、教育学研究院の山仲勇二郎准教授が発表し、北海道教育庁記者クラブ加盟社等から5名の参加

がありました。発表内容は以下の通りです。

（総務企画部広報課）

発表事項（発表者）

・冬の睡眠～生物時計と光～

准教授 山仲勇二郎（教育学研究院）



定例記者会見の様子



発表を行う山仲准教授



記者からの質問に答える山仲准教授



当日の発表者と吉見理事・副学長
（左から山仲准教授、吉見理事・副学長）

総長記者懇談会を開催

2月4日（金）、総長と地元記者との交流を深めることを目的とした「記者懇談会」をオンラインにて開催しました。本学から寶金清博総長及び吉見宏理事・副学長（広報室長）が出席、北海道教育庁記者クラブ加盟社から7名の参加がありました。

寶金総長から、第4期中期目標・中期計画について話題提供があり、その後、記者の方々との懇談を行いました。

記者からは、新型コロナウイルス感染症流行による学生や研究活動への影響に関する質問のほか、SDGsに関する取組等、様々な質問があり、闊達な

雰囲気での懇談が進みました。

寶金総長からは「本学は歴史的にもSDGsに非常に強い大学であるので、指導的な大学を目指していきたい」旨の発言がありました。

（総務企画部広報課）



記者懇談会の様子



記者からの質問に答える寶金総長



当日の参加者（左から寶金総長、吉見理事・副学長）

「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 旭川東高校、北海高校へ向けて3名の研究者が講義を実施

12月7日（火）に北海道旭川東高等学校、12月18日（土）に北海高等学校に向けて、計3名の研究者が講義を実施しました。

顕微鏡でみる ミクロな水中の世界 低温科学研究所 准教授 木村勇気

「水と氷の界面はどうなっているのか?」、「水と氷は明確に線引きできるのか?」など、様々な疑問に答える形で、水の中のミクロな現象について、

最新の顕微鏡画像や映像などを交えて紹介しました。最後に「将来、世界一楽しい研究を一緒にやりましょう!」と高校生達に呼びかけました。



水の中のミクロな現象について解説する木村准教授

日 時：12月7日（火）14：00－15：30

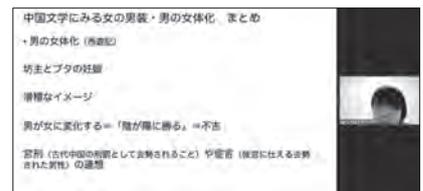
会 場：北海道旭川東高等学校

参加生徒：1－3年生 19名

中国文学と異性装 文学研究院 准教授 田村容子

「異性装」とは身体的性別とは逆の服装を身に着けることで、中国文学の世界ではよく見られます。田村准教授は、異性装が描かれている中国文学を

紹介し、「性別規範は歴史や社会環境からつくられる要素が非常に大きいです」と語りました。



中国文学にみられる異性装について説明する田村准教授

日 時：12月18日（土）15：00－16：00

対 象：北海高等学校

参加生徒：1，2年生 24名（オンラインにて実施）

MRIで認知症や神経難病の早期発見を目指す 医学研究院 教授 工藤興亮

画像診断専門の医師である工藤教授は、MRI（核磁気共鳴画像）診断の歴史や仕組み、開発中のMRI検査法のほか、医学部を目指している人に向け

て、医学部で学ぶことや、医師になってからの働き方などについても紹介しました。



MRIの仕組みや診断法について解説する工藤教授

日 時：12月18日（土）15：00－16：00

対 象：北海高等学校

参加生徒：1，2年生 31名（オンラインにて実施）

アカデミックファンタジスタとは？

本学の第一線の研究者が出張講義や、オンライン講義などを通じて高校生に研究を伝える「Academic Fantasia（アカデミックファンタジスタ）」。

2021年度はコロナ対策を十分に行って、札幌近郊の高校等を対象に17名の教員が講義を実施しています。当事業

は、内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと、2012年度より実施しています。

研究広報特設サイト「リサーチタイムズ」やFacebookでも講義レポート等を随時更新中です。こちらもぜひご

覧ください。

リサーチタイムズ

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/>

Facebook @Hokkaido.univ.taiwa

（総務企画部広報課）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額 (12月31日現在)

32,427件 5,729,245,684円

12月のご寄附状況

法人等16社、個人658名の方々から46,585,472円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名 (法人等)

ICソリューションズ株式会社、旭川赤十字病院、医療法人新楓和会 あさぶハート・内科クリニック、株式会社大林組、医療法人社団おびひろアート矯正歯科、草野作工株式会社、大地みらい信用金庫、チェスト株式会社、株式会社ナカノフーズ、株式会社ナチュラルサイエンス 北海道支店、沼辺の会、医療法人社団はぎわら歯科クリニック、古野電気株式会社、北大全学教育基礎科目教科書『地球惑星科学入門』著者一同、株式会社ユニシス

寄附者ご芳名 (個人)

合川 正幸	青木 俊介	阿部 雅史	網塚 浩	有泉 吉泰	安藤 智昭	石井紀恵子	石井 哲夫
石塚 浩一	石山 達雄	井戸川静夫	井上 勝六	猪股 路子	井原 博	井本 剛司	入澤 秀次
岩崎 正則	岩下 明裕	絵面 良男	縁記 和也	遠藤 公憲	太田 英男	大原 正範	大矢 能成
尾北 紀靖	尾北 真理	奥田 英信	小熊 豊	尾嶋 孝一	小田原一史	角田 敏男	笠原 智恵
勝山 真吉	加藤 元	加藤 達哉	金川 眞行	神垣 光徳	上條 直樹	神山 晃汰	河合 新三
河本 充司	菊地 茂	菊池 武邦	北島 裕介	衣川 暢子	桐山 琴衣	久野 宏幸	久米 祐希
河野 匠	小島 隆人	小長井奎幸	小林 圭介	小林 賢人	小林 泰名	小松 庸祐	今野 隆彦
齋藤 類	齊藤 晋	齋藤 久	坂本 大介	崎山 幸雄	佐藤 久	佐藤 賢	三升畑元基
重田 親司	志済 聡子	渋谷 正人	清水 研一	榛葉 貴博	末武 晋一	菅沼 宏之	菅原 新也
杉江 和男	鈴木 貴之	須藤 武	瀬川 章	関戸 徹	瀬名波栄潤	瀬山 邦明	空井 護
高田 佳幸	高野 耕	高山 晃作	竹内 信彦	巽 聡子	田中 一哉	田中 利男	田中 秀明
辻井 正久	土家 琢磨	土屋 裕	角井 淳一	寺澤 睦	照屋 均	戸城 博行	戸田 純子
豊田 威信	長井 桂	長岡 宗男	中川 直	中里 孝史	長澤 稔	中塚 英俊	長野 克則
永原 拓巳	成澤 優	成木 訓久	和 吾郎	和 詩賀子	西田 実弘	西田 雄二	西原 広史
西山 美奈	野崎 正志	野村 修一	野村 竜司	橋野 聡	長谷川就一	長谷川洋一	花田 秀一
林 幸一	林 将人	原島 秀吉	原田 敏之	樋口 俊幸	平井 喜郎	福士 幸治	福永 悟郎
藤澤 裕子	藤田 寿	藤田 篤	藤丸 俊樹	本間紀久雄	本間 理央	前田 博	政氏 伸夫
町田 泰一	町田 貴裕	松井 佳彦	松田 健一	松永 聖弘	松原 謙一	松本 明丈	御子神弘久
水上 武司	溝畑 茂治	三谷 千花	三土 京子	秋山 良男	峰村 昭彦	宮田 信幸	向田 茂樹
村上 明	村上 泰一	村上 幸夫	村瀬徳啓充	村田 翼	矢嶋 剛	柳田 康幸	八幡 敬一
山口 淳二	山本 茂生	湯浅 資之	横山 考	吉田 幸治	吉田 広志	渡辺明日香	和田 昇

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（個人）

網塚 浩, 尾北 紀靖, 尾北 真理, 加藤 達哉, 菅沼 宏之, 成澤 優, 樋口 俊幸, 藤田 寿, 秋山 良男, 峰村 昭彦, 村上 明

（法人）

株式会社大林組, 草野作工株式会社, 古野電気株式会社

感謝状の贈呈



一般財団法人砂防・地すべり技術センター 様
(令和4年1月12日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

JA北海道厚生農業協同組合連合会から道内産農畜産物が贈呈

JA北海道厚生農業協同組合連合会からのご厚意を賜り、1月14日（金）に、本学事務局大会議室にて贈呈式が執り行われました。贈呈式には同会から園木勇司代表理事専務及び小川秀幸常務理事が、本学からは寶金清博総長、山口淳二理事・副学長が出席し、道内産農畜産物の目録の贈呈式が行われました。

園木代表理事専務から「新型コロナウイルス感染症の感染長期化により、牛乳やお米を含む北海道産農畜産物の需要と供給のバランスが崩れ、道内生産者においては営農面に関して、また

加工業者においても販売面において不安な思いを抱いています。このような背景からこの度、JAグループ北海道の一つである本会が生産者や加工業者の役に立ちたいというご意向のもと、包括連携協定を締結している貴学に道内産農畜産物を贈呈するものです。」との趣旨説明をいただき、農畜産物の目録が寶金総長へ手渡されました。

寶金総長から、多大な寄附への御礼の言葉と「贈呈いただいた道内産農畜産物については、恵迪寮及び霜星寮の学生に配布するほか、本学の学生・教職員を対象に配布したい。」との発言

がありました。

札幌キャンパス内への配布は北海道大学生協の協力により、以下の日程で本学生協北部食堂・中央食堂・クラーク食堂等にて広く配布を予定しております。

【北大生協での配布期間】

令和4年1月24日（月）～（無くなり次第終了）

※配布時間は、各店舗の営業時間等による。

（学務部学生支援課）



贈呈の様子（左から園木代表理事専務、寶金総長）



寄附の趣旨を説明する園木代表理事専務



謝辞を述べる寶金総長（左から、小川常務理事、園木代表理事専務、寶金総長、山口理事・副学長）

第24回北海道大学ーソウル大大学校ジョイントシンポジウム



ジョイントシンポジウムバナー

24回目となる北海道大学ーソウル大
大学校ジョイントシンポジウムを、本学
の主権によりオンライン開催しまし
た。初日11月4日（木）の全体会で

は、横田 篤理事・副学長による両校
の連携紹介および寶金清博総長による
開会挨拶に引き続き、双方の大学にお
ける産学連携の現状について紹介が行

われ、産学連携プロジェクトについて
基調講演が行われました。

○全体会 11月4日（木）10：00～11：40

テーマ：Enhancement of Universities' Capacity through Industry-Academia Collaboration
(産学連携をととした大学機能の拡張)

10：00～10：10	はじめに、両校連携の紹介（横田篤理事・副学長）
10：10～10：15	開会挨拶（寶金清博総長）
10：15～10：20	祝辞（SNU Se-Jung Oh学長）
10：20～10：30	SNUの産学連携状況紹介（SNU R&DB財団 Yongtaek Hong特任教授）
10：30～10：40	HUの産学連携状況紹介（産地機構 寺内伊久郎教授・副機構長）
10：40～11：00	基調講演①（産地機構 山本強特任教授）
11：00～11：20	基調講演②（SNU 医科大学Junho Chung教授）
11：20～11：30	質疑応答とまとめ（SNU Dukgeun Ahn国際担当部長・教授）
11：30～11：35	閉会挨拶（横田篤理事・副学長）
11：35～11：40	閉会挨拶（SNU Jungsung Yeo学務担当副学長・教授）
11：40	終了

○執行部会談 11月4日（木）9：00～9：20

全体会に先立ち、双方の執行部によ
る会談を行い、リスト・ベンジャミン
特任教授のノーベル賞受賞や新型コロ
ナウイルスへの対応状況、次回のシン

ポジウムに向けた今後の交流などにつ
いて、和やかな雰囲気の中で情報交換
しました。



執行部会談

○職員交流 11月5日（金）10：30～17：00

2日目には、テーマ別に双方の職員同士が意見交換を行い、本学より51名、SNUより33名の計84名が参加しました。

時間	本学部署	SNU部署
10：30～12：00	附属図書館	中央図書館
	<p>2019年に部局間協定を締結して以降、初めての実質的な交流となった本セッションでは、SNU図書館が導入するサービスプラットフォーム「Alma」や、電子書籍利用状況と非英語学術図書館の電子化促進に向けた方策、卒業論文へのオープンアクセスや国会図書館システムとの連携、本学附属図書館職員によるブログのアイデア等について意見交換を行いました。</p>	
	 <p>職員交流①図書館</p>	
13：30～15：00	北方生物圏フィールド科学センター	学術林
	<p>15年以上に渡り実施する農学部学生の合同フィールドワークショップを支援する研究林技術職員同士の交流の機会として、技術職員・教員含め40名が参加する大規模なセッションとなりました。研究林の林道管理予算や、木材生産の価格帯決定・樹種の比率、森林の伐採サイクル、地域コミュニティを交えてのアウトリーチイベント等について意見交換を行いました。</p>	
	 <p>職員交流②研究林</p>	
15：30～17：00	高等教育研修センター，技術支援本部，オープンファシリティセンター	教育学習センター，国際部署
	<p>本学技術支援本部，SNU国際部長，双方の高等教育研修センター教員が参加しました。双方のスタッフ・ディベロプメント（SD）やファカルティ・ディベロプメント（FD）の概要説明のほか，コロナ禍におけるオンラインを活用したSD，FDの現況，ハイブリッド・オンライン教育への支援，学生の授業形態選択権の担保等について，幅広く情報交換を行いました。</p>	
	 <p>職員交流③FD, SD</p>	

本シンポジウムは1998年より毎年開催しており、25回目となる来年度は、SNUが主催する予定です。

(国際連携機構)

分科会1

2021 International Workshop on New Frontiers in Convergence Science and Technology

2021年複合科学のニューフロンティアに関する国際ワークショップ／情報科学研究院 教授 平田 拓

2年ぶりの開催となった本分科会は、情報科学研究院ビッグデータとIoTに関する協同センターの協力も得て開催しました。参加者は、最大で49名の同時接続がありました。教員は本学側で8名（近野 敦副研究院長、講演者3名、代表者、他3名）、ソウル大学校（SNU）側で5名（Sung-Joon Ye研究科長、講演者3名、代表者）でした。

分科会では、開会に際してSNU Graduate School of Convergence Science and TechnologyのYe研究科長と、情報科学研究院の近野副研究院長から挨拶がありました。その後、本学とSNUの教員による講演（北大3件、SNU3件）と、大学院生によるショートプレゼンテーション（北大4件、

SNU5件）が行われました。教員、大学院生とも、バイオ、ナノテクノロジー、情報通信の分野の発表が行われました。本学の大学院生は初めて英語で発表する学生も多く、それなりの準備をして発表に臨んだようでしたが、英語での質問に窮する学生も見受けられ、自分の実力を知る良い機会になったものと思います。コロナ禍で国内・国際学会ともに発表の機会が減っている中で、大学院生が発表する機会が持てたことは良かったと考えています。英語で発表する経験を積む良い機会となりました。

これまでの分科会では、大学院生はポスター発表を行っていましたが、オンライン開催ということでショートプレゼンテーション（発表7分、質疑3

分）の形にしました。SNUの教員参加者とも意見交換しましたが、この形態は比較的好意的に受け止められていました。一方で、質問の時間が限られているため、分野外の人から質問が難しいという点も指摘されていました。いずれにしても、大学院生にとって良い機会であったということでは意見が一致しました。

オンライン開催では、発表以外での双方の交流が限られており、休憩時間などで雑多な話ができるような機会は持てませんでした。来年、リアルなジョイントシンポジウム分科会が開催されることを期待しています。

（情報科学研究院）

分科会2

SNU-HU-MU Joint Class: Environmental Chemicals and Human Health

SNU-HU-MU共同講義：環境化学物質と人々の健康／環境健康科学研究教育センター 特任教授 宮下ちひろ

11月19日（金）、26日（金）に開催された本分科会は6回目の開催であり、ソウル大学校（SNU）、タイのマヒドン大学（MU）との協同講義としては5回目となります。3大学から教員10名及び大学院生30名が参加しました。

環境化学物質の曝露評価や生体モニタリング等の基礎知識に加えて、COVID-19、大気汚染と健康問題、室内環境、E-waste（電子廃棄物）、胎児期の化学物質曝露と子どもの健康、化学物質管理に関する、幅広い講義が提供されました。

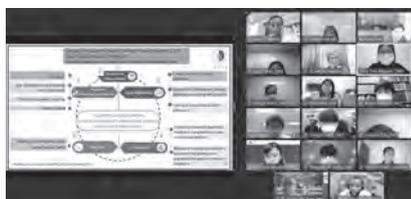
加えて、各大学に所属する大学院生

の混合構成による4組が事前学習として情報収集や討論を行い、その成果を発表しました。環境保健、環境疫学を専門とする大学院生のみならず、本学からは国際感染症学院、保健科学院、医学院、環境科学院、獣医学院、理学院に所属する大学院生、またOne Health Allyコースとしても提供されたため、帯広畜産大学並びに酪農学園大学所属の大学院生も参加し、留学生も多く参加したことから、国際色豊かで多様な視点を持つ質問や意見が出されました。本講義を通じて本学とSNU、MUの大学院生との交流によりネット

ワークを形成することは、将来の受講生のキャリア形成においても有益でした。

今回はオンラインでの開講となりましたが、来年度はMUにてラーニングサテライト事業として開講予定です。受講生からの評価も高く、来年度も参加したいという希望がありました。今後も継続して講義を提供していく計画です。

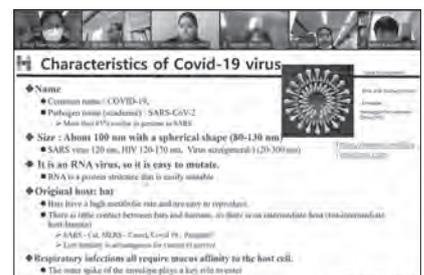
（環境健康科学研究教育センター）



グループプレゼンテーションの様子



来年度へ向けて



授業の様子

分科会3

The 10th HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Engineering

第10回材料科学工学に関する合同シンポジウム／工学研究院 教授 橋本直幸

本合同シンポジウムは、工学研究院材料科学部門をホストとして12月3日（金）にオンライン開催しました。ソウル大学側は、昨年同様Myoung-Gyu LEE教授に取り纏め頂きました。今年度は本学・ソウル大学校双方から計14名の教授・准教授に大学院生及び学部生46名を加えて、計60名の参加者数となり、北大8名、ソウル大4名の研究者からご講演頂きました。

講演・発表内容は多岐にわたり、構造材料、エネルギー材料、ナノ材料、新規特性材料、製造プロセスに関する最新の研究が紹介されました。両大学とも、コロナ禍で研究環境が十分ではない状況にありながらも、着実に研究

成果を出している印象を受けました。また、前回に引き続きオンライン開催であるためか、参加者数は多いが、討論がスムーズに進まない傾向にあったことが残念です。

次年度も、引き続き北海道サマーイ

ンステイテュートの開講を積極的に進め、状況が好転すれば、可能な限り学生のインターンシッププログラムも進めたいと思います。

(工学研究院)



参加者集合写真

分科会4

Joint Symposium in the Fields of Mechanical and Aerospace Engineering

機械航空宇宙工学分野における合同シンポジウム／工学研究院 教授 大橋俊朗

本学機械知能工学科とソウル大学校航空宇宙工学科の間で、同分科会を12月17日（金）にオンラインにて開催しました。同分科会は、2016年度の第12回開催を最後に4年間開催されていませんでしたが、ソウル大学校代表者のChongam Kim教授の協力のもと5年振りに開催することができました。

当日は、88名の参加者を得て「Fluid Dynamics, Fuel Cells」, 「Measurement and Control, Robotics」, 「Aircraft Design, Fracture Mechanics」, 「Biomechanics」の4つのセッション

の下、両大学より教員8名ずつ計16名による口頭発表を行いました。

また、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いて、両大学より大学院生8名ずつ計16名によるポスター形式の研究発表を併せて行いました。機械系4分野にわたる最先端の研究発表ならびに活発に行われた質疑応答は大変有意義であり、5年振りとはなりましたが研究交流が再開できたことは大きな成果でした。

午前中の最後には教員セッション「Open Discussion Towards Future

Joint Symposium (将来の合同シンポジウムについてのオープンディスカッション)」として1時間程度にわたり、今後の分科会開催について意見交換を行い、来年度から継続して開催することを改めて確認することができました。コロナ禍の先行きは不透明ですが、来年度はハイブリッド形式（対面及びオンライン）で開催を予定しています。

(工学研究院)



分科会の様子

分科会5

The 15th HU-SNU Joint Symposium on Mathematics: Operator Algebra

第15回HU-SNU数学におけるジョイントシンポジウム：作用素環論分科会／理学研究院 准教授 鈴木悠平

昨年度は分野を限定せずに数学全体の分科会として行っていた企画を、今年度は作用素環論に絞って開催することになりました。既にオンラインによるセミナー発表などの経験は多くの人が豊富にあったと思われるので、オンライン化による不都合や不具合はほとんどありませんでした。本学、SNU側ともに、学生、博士研究員、教員の講演発表をバランスよく設定できたことは良い点であったと思います。

特に、国際的な場で講演経験を積む機会は、国外研究者から正当な評価を得るのに時間がかかることが多い数学の場合、若い内に得ることはなかなか難しいので、博士研究員や学生にとっては特に良い経験であったと思われます。

反省点としては、関連分野の博士研究員が2名参加できたという点は幸いでしたが、それでも本学側の参加者があまり多くならなかった点です。分野を限定することで、実のある議論を行うことができる一方で、他分野からの参加が難しくなるという問題点があり

ます。来年度以降同様の企画を行う際には、教員、博士研究員、学生の多い分野を選ぶ、関連分野も巻き込むなどの工夫をして、反省点を生かしていくべきであろうと思います。

(理学研究院)



分科会の様子

分科会6

Collaborative Forest Science Education and Research in the Post-pandemic

ポストパンデミックにおける森林科学教育・研究の連携／農学研究院 教授 玉井 裕

本分科会は、ソウル大学校農学生命科学部森林資源学科と、本学農学研究院森林科学分野及び北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーションと共同で、12月13日（月）にオンラインで開催しました。教員のほか、研究者や学生を含め、総勢49名の出席者がありました。

分科会では、双方の学科と研究林の紹介に加え、8名の研究者が、森林環境から木材化学に至るまで多岐に渡る最新の研究成果を発表しました。各々の発表には共通の話題も多くあり、パンデミック後には、往來を活性化させることにより共同研究を推進していきたいとする希望が多く出されました。

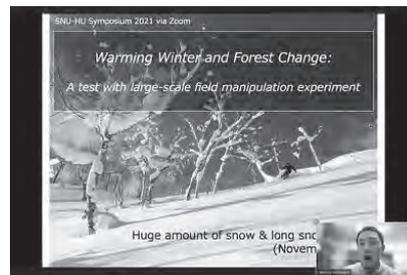
また本学森林科学科が、ソウル大学校森林資源学科と20年以上に渡り、双方の大学研究林にて共同で実施している学生実習についても、パンデミック後に再開させることで意見が一致しま

した。

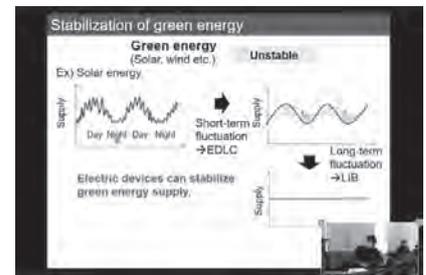
分科会の開催を通じて、オンラインであっても交流を継続していく意義を実感しました。来年度は大学院生の発

表も取り込み、より活発な分科会とすることを目指しています。

(農学研究院)



研究発表の様子①



研究発表の様子②



分科会北大会場風景



分科会参加の様子

分科会7

How would COVID-19 change the education at dental school?

COVID-19による歯学教育と臨床の変化／歯学研究院長 教授 八若保孝

1月24日(月)に、歯学研究院としては第4回目となる分科会を開催しました。

本分科会は、ソウル大学校歯学部のパク・シンヨン教授とヨ・ウンジェ教授、本学歯学研究院の井上 哲教授(佐藤嘉晃教授と連名)と佐藤 淳准教授の計4名による発表が行われ、新型コロナウイルス感染症による種々の制限下における歯学教育の現場の対応

や臨床教育の実状等について、活発な情報交換・意見交換がなされました。

また、これらの発表に先立ち、本学歯学部3年の市川茉莉萌さん、神藤万裕さん、山本みちかさん、吉本詩音さんが本学の紹介等を韓国語により発表することで、両校の相互理解・親睦をより深めることができました。

今回は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン

による開催となり、直接往来をしておの交流は叶いませんでしたが、両校の教員、大学院生を中心に80名を超える参加があり、非常に有意義なシンポジウムとなりました。

今後、本分科会をはじめとした両学部等の交流を継続し、教育・研究の連携をより一層進めていく計画です。

(歯学研究院)



分科会風景



発表者と参加者の意見交換

分科会8

Watching K-drama in Japan: Texts and Contexts

日本からKドラマをみる：テキストとコンテキスト／メディア・コミュニケーション研究院 准教授 金 成玫

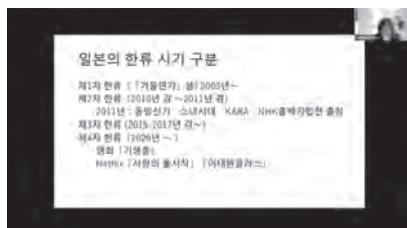
本分科会は、「Watching K-drama in Japan: Texts and Contexts」をテーマに、12月3日(金)にソウル大学校-北海道大学共同セミナーを開催しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、Zoom会議の形式で開催された本セミナーは、ソウル大学校日本研究所所長の金 顕哲教授の挨拶から始まり、京都産業大学の山中千恵教授、日本女子大学の平田由紀江准教授、摂南大学の森 類臣准教授による研究発表、本学の金 成玫准教授とソウル大学校の金 孝眞助教授による討論の順番で行われました。日本と韓国から80名以上の方が参加し、質疑応答時間を通じて意義のある議論を行いました。

昨年度に続いて2回目となる本セミナーを通じて得られた大きな成果とし

ては、日韓のメディア・大衆文化研究における共同研究のさらなる可能性を本学とソウル大学校が提供できるということを確認したことや実際そのような成果が明確に見えてきたことであります。開催後に両校の担当者は、来年度以降も広いネットワークを築きながら日韓の研究成果を発信していくことに合意しました。

(メディア・コミュニケーション研究院)



口頭発表の様子



イベントポスター

RITARU COFFEE × 北海道大学 オリジナル燻製珈琲 「アノトキ」を開発 ～学内試飲会を開催～

1月20日（木）、FMI国際拠点にて、RITARU COFFEEと北海道大学が共同で開発したオリジナル燻製珈琲「アノトキ」の学内試飲会を開催しました。

今回開発した燻製珈琲「アノトキ」は、北海道大学にある古い温室をフィールドとして進めているアートプロジェクト「アノオンシツ」と、札幌市内のカフェRITARU COFFEEが共同で開発しました。アノオンシツ代表の朴炫貞特任講師（CoSTEP）の、「北海道大学の自然を、日常の中で感じられるものをつくりたい」という思いをきっかけに、北海道大学ならではのアノオンシツブレンドを目指すアノオンシツ側の思いと、札幌らしい珈琲をつくりたいRITARU COFFEE側の思いが交わり、生まれた珈琲です。

RITARU COFFEEには元々燻製珈琲のメニューがありましたが、今回の「アノトキ」は2021年10月に行われた札幌キャンパスをつないでいた「跨道橋」を撤去する工事で伐採された、北海道大学の札幌キャンパスの木々を用いて燻製されています。「その木々を

飲む」ことで思い出を記憶するというコンセプトのもと、「アノトキ」という商品名とし、実際に大学の自然を用いて作られた、オリジナリティーのある珈琲となっています。

2月からの一般発売に先立ち、北海道大学の教職員・学生や報道関係者の皆様にまずご紹介する場として、試飲会を開催しました。報道機関と学内者を対象に事前申込制で実施し、当日は教員・学生・職員から110名を超える参加があり、80を超える感想が寄せられました。「自分用以外でも北大の思い出としてプレゼントで購入したい」という意見が6割を超え、また感想として、「跨道橋の、永年の研究者の方々の想いを心に巡らせながら珈琲をいただきたいと思います」、「飲み終わった後のカップや後味で特に香りを感じることができました」「飲むと香りが立って、そこにあった木の存在が感じられました」、「ちょっと社会貢献してる気持ちになりました」、「ミルクとの相性が良いと感じました」、「北海道は深煎りコーヒーが多い印象がありま

すが、スッキリしてとても飲みやすかったです」、「酸味の少ない好みの味」、「ストーリー性などにも共感しました」など、様々なコメントが集まりました。

2月1日（火）から、RITARU COFFEEオンラインショップでの販売を開始し、2月中旬からはRITARU COFFEEの店舗やインフォメーションセンターエルムの森「オリジナルショップ」や北大生協会館店、北大マルシェCafé&Laboなどで、販売が開始されています。ぜひ、お楽しみください。

主催：アノオンシツ（CoSTEP+北方生物圏フィールド科学センター）
協力：産学・地域協働推進機構
写真協力：北海道大学広報課（学術国際広報担当）、学務部、RITARU COFFEE

アノオンシツ
<http://anogreenhouse.com/>
RITARU COFFEE オンラインショップ
<https://ritaru.shop-pro.jp/>

（高等教育推進機構）



オリジナル燻製珈琲「アノトキ」パッケージには伐採前の木々を跨道橋の上から撮影した写真を使用



RITARU COFFEEスタッフによる「アノトキ」ドリップ実演と提供



燻香を楽しむ試飲会参加者



アノトキのストーリーがわかる配布物と試飲会の開放的な会場

「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」 制定記念講演会を開催

北海道大学は12月1日（水）、人権尊重の観点から人間社会の基盤であるとともに「世界の課題解決に貢献する」大学として不可欠な「多様性と包摂」の理念について、学内構成員の理解を促進し、国際社会に向けて本学の決意を発信することを目的に、「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」を制定しました。

これを記念し、大学におけるダイバ

シティ&インクルージョンを推進する上で重要なテーマである「ジェンダー、セクシュアリティ、民族共生、ユニバーサルデザイン」について、連続講演会を開催しました。

各テーマの専門的見地からの講演や、講演者とコメンテーターとの対談を通じて、参加者とともに現状への理解と課題解決に向けて考える機会となりました。

講演会全体では、延べ828名の方からお申し込みをいただき、ダイバーシティ&インクルージョンについての関心の高さを伺うことができました。

本講演会は、令和3年度中に日本語及び英語の字幕を付けて、学内限定公開をする予定です。

(人材育成本部)

開会式、第1回記念講演：大学と民族

開催日：令和3年12月10日（金）

開催概要：山口淳二理事・副学長より開会の辞、寶金清博総長より式典挨拶があり、講演者にウスビ・サコ京都精華大学学長、聞き手に結城幸司アイヌ・アート・プロジェクト代表をお招

きし、加藤博文アイヌ・先住民研究センター長の司会で「グローバル化時代の大学－違いを認め合う共生社会を目指して－」と題して対談いただきました。



開会式の様子
(左から、山口理事・副学長、寶金総長)



第1回記念講演の様子
(左から、サコ学長、結城代表、加藤センター長)

第2回記念講演：大学とユニバーサルキャンパスデザイン

開催日：令和3年12月16日（木）

開催概要：講演者に山田あすか東京電機大学未来科学部建築学科教授、聞き手に小篠隆生工学研究院准教授をお招

きし、菅原修孝理事の司会で「共生社会の基盤となるキャンパス・コミュニティ」と題して対談いただきました。



第2回記念講演の様子
(上から、山田東京電機大学教授、小篠工学研究院准教授)

第3回記念講演：大学とセクシュアリティ

開催日：令和3年12月20日（月）

開催概要：講演者に三成美保奈良女子大学教授、聞き手に鈴木 賢明治大学法学部教授・北海道大学名誉教授をお

招きし、瀬名波栄潤文学研究院教授の司会で「なぜ、ダイバーシティが必要か？—尊厳としてのセクシュアリティ—」と題して対談いただきました。



第3回記念講演の様子
(三成奈良女子大学教授)

第4回記念講演：大学とジェンダー，閉会式

開催日：令和3年12月22日（水）

開催概要：講演者に大沢真理東京大学名誉教授，聞き手に三輪敦子一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク共同代表理事をお招きし，長堀紀子人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室特任教授の司会で「ジェンダー平等を

推進し，研究する人生の魅力を高める」と題して対談いただきました。講演会ののちに，矢野理香人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室長より講演会に参加・ご協力いただいた皆様への謝意が述べられ，閉会となりました。



第4回記念講演の様子
(大沢東京大学名誉教授)

開催報告はこちらからご覧ください

<https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp/archives/20010/>

北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言

<https://diversity.synfoster.hokudai.ac.jp/statement/>

博士人材と企業の情報交換会 第48回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、1月17日（月）から1月24日（月）にオンラインにて、本年度第3回（通算第48回）「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催しました。

本会は、博士人材を求める企業と自身のキャリアの可能性を広げたい博士人材が専門分野のみならず、専門分野を超えた交流を行い、博士人材の活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回、参加した企業は29社、博士人材は23名となりました。博士人材の内訳は、北大の博士人材が9部局19名、平成26年度末より採択された科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業による連携大学からの博士人材が4名（横浜国立大学3名、立命館大学1名）です。

本会は、コロナ禍以前は企業と博士人材が対面で交流する場でしたが、そこで培った異分野交流や博士人材の質の高いプレゼンテーションをオンラインでも実施できるよう工夫しています。例えば、博士人材はプレゼンテーション演習を受講し、担当講師から動画作成の許可を得た後に、自身の紹介

動画を作成しており、また、自分の専門とは一見離れた企業とも交流するように促しています。

人材育成本部の動画配信サイトでは、このような指導を受けて作成した博士人材の紹介動画や企業の動画を双方が視聴、閲覧そして交流し、その後Zoomにて博士人材が企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行なわれました。

開催後、企業からは「非常に積極的なご参加者が多く、質問も多く寄せていただき、一方弊社からの質問や話題振りに対しても真摯にお答えいただき、大変有意義な時間となりました。」「全ての学生のプレゼンが素晴らしく、技術的に親和性がない学生との交流も、抵抗なく行える点が良いと思う。」との声をいただくことができました。

また、参加した博士人材からは「短い時間でも企業への印象が変わる。ネットや就活本などから企業のことを知ることより交流が大事だと気づいた。」「企業就職について漠然としたイメージしかなかったのですが、しっかりしたビジョンが抱けるようになりました。」

「企業に向けた自己PRの仕方を考え直す必要に気づき、また以前は知らなかったAIを活用した企業に気づけた。」といった嬉しい声も聞かれました。

オンライン化によって参加企業数を増やすことが可能となったため、今年度も企業の複数回参加可としたところ、第1回～第3回の合計参加数は延べ66社（実数59社）となり、多くの企業に複数回ご参加いただきました。

人材育成本部では赤い糸会のほか、Advanced COSA、個別キャリア相談、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップや、コンソーシアムの連携大学である東北大学や名古屋大学等が運営するプログラムの活用などによって、博士人材の実践力を高めております。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

ご興味のある方は、人材育成本部のホームページをご覧ください。

(<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>)

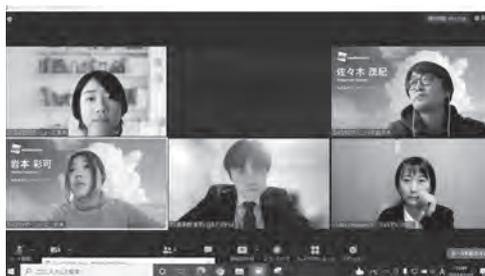
(人材育成本部)



吉原拓也特任教授の趣旨説明



Zoomによる個別情報交換の説明



博士人材と企業の個別情報交換

■ 部局ニュース

地球環境科学研究所・環境科学院でFD研修会を開催

地球環境科学研究所・環境科学院では、1月6日（木）に令和3年度FD研修会「安全保障輸出管理について」を、本研究所を会場にオンライン配信を併用したハイブリッド方式により開催しました。

本FD研修会は、教育研究活動の国際化を推進させる取組の一環として、国際的な平和及び安全の維持を目的とした、外国への技術の提供及び貨物の輸出における厳格な管理制度である「安全保障輸出管理」について理解を深めるため開催したものです。

当日は、対面及びオンライン利用合わせて54名の教職員が参加のもと、講師としてお招きした産学・地域協働推進機構の大林明彦教授からご講演をいただきました。

谷本陽一研究院長からの冒頭での挨拶の後、講演では、同制度における「安全保障輸出管理総論」、「米国再輸出規制」及び「日々の教育・研究で対象となること」について説明いただいた後、今年の5月1日から適用予定の「みなし輸出管理明確化」について、技術提供における「居住者」の類

型により規制が明確化されるなどの説明をいただき、最後には質疑応答において活発な意見交換がなされました。

本研究所・学院には、外国人留学生等が多く在籍していることから、特に「技術の提供」に関することを中心にお話ししていただき、参加した教職員にとって大変有意義な研修会となりました。

（地球環境科学研究所・環境科学院）



講演の様子（右が講師の大林教授）

雨龍研究林で「森のたんけん隊」を開催

1月13日(木)、森林圏ステーション雨龍研究林にて「森のたんけん隊2022冬」を開催しました。

「森のたんけん隊」は、冬休み中の小学生を対象に森の中で遊びながら森の仕組みや生き物の営みを学び、交流を深めることを目的とした野外プログラムで、2001年から毎年この時期に行われてきました。昨年度は残念ながら中止となりましたが、今年度はコロナの感染対策を十分に行ったうえで、例年は1泊で実施するところを日帰りで開催することとなりました。

当日は、地域の小学4-6年生、合計13名が参加しました。前日が猛吹雪となり開催が心配されましたが、幌加

内町母子里の研究林施設に到着した頃には雪も止み、少々寒いものの、穏やかな天候に恵まれました。午前中、かんじきを履いて、真冬の森の中で樹木の種類や特徴に関するクイズを解いて歩くプログラムです。樹木の太さや高さの計測方法も学びます。そして午後、午前に学んだ知識・経験を活かす宝探しを行いました。研究林の職員がつくった「巻物」のヒントをもとに、子供たちは、仲間たちと協力しながら宝の場所を探しあて、2m近く積もった深い雪の中からスコップで掘り出していました。

コロナで多くのイベント活動が制限され、また家に籠りがちなこの時期、

野外でのプログラムは、子供たちにも新鮮な体験になったようです。事後のアンケートには「木のことがたくさん知れた」「たからものをほりだしたときはとてもうれしくなった」「また来たいと思った」「思い出に残りそう」といった感想がありました。研究林の職員一同も、子供たちが楽しそうに遊ぶ姿に元気づけられる一日でした。学生実習なども延期や中止が相ついでありますが、このあとも無理のないかたちで幅広い教育活動を行っていきたいと考えています。

(北方生物圏フィールド科学センター)



クイズに答えるため職員の解説に集中する子供たち



専用の道具を使って木の高さを計測する様子



腰までの雪をかき分けて森を探検する様子



巻物のヒントを頼りに宝探しをする様子

■お知らせ

過半数代表候補者の決定

札幌キャンパス事業場（病院を除く。）における過半数代表候補者は、以下のとおり決定いたしました。

※ 立候補者の記載は届出順。

（総務企画部人事課厚生労務室）

職種・系区分		過半数代表候補者		
教 員	文 系	（教育学研究院）	上 山 浩次郎	
	理 系	理 学 研 究 院	（理学研究院）	渡 邊 剛
		工学研究院・情報科学研究院	（工学研究院）	深 澤 達 矢
		上 記 以 外 の 理 系	（地球環境科学研究院）	山 田 幸 司
	医 系	（歯学研究院）	高 崎 千 尋	
職 員 （ 教 員 を 除 く ）	附 置 研 究 所 ・ 研 究 セ ン タ ー 系	（触媒科学研究所）	飯 田 健 二	
		（歯学事務部）	秋 永 崇 裕	
		（総務企画部）	今 城 颯 太	
特任教員・契約・短時間勤務・嘱託職員		（総務企画部）	足 利 誠	
		（低温科学研究所）	日 下 稜	
		（工学研究院）	安 住 和 久	

■ 諸会議の開催状況

役員会（令和4年1月11日）

協議事項・国立大学法人北海道大学業務方法書の変更について

- ・全学運用教員の措置について

報告事項・総長補佐の任命について

- ・会計検査院による令和3年度会計実地検査の結果について
 - ・会計検査院令和2年度決算検査報告について
 - ・令和4年度運営費交付金等（予定額）について
 - ・役員退職手当の支給について
-

経営協議会（令和4年1月18日）

議 題・業務方法書の変更について

- ・第4期中期目標・中期計画（原案）について
- ・役員退職手当の支給について

報告事項・令和4年度運営費交付金等（予定額）について

- ・令和2年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

意見交換・北海道大学の研究戦略について

教育研究評議会（令和4年1月19日）

議 題・第4期中期目標・中期計画（原案）について

報告事項・総長補佐の任命について

- ・令和4年度運営費交付金等（予定額）について
 - ・産業創出講座等の設置及び更新について
 - ・寄附講座等の更新について
 - ・デスクネットネオの全教職員への導入について
 - ・全学運用教員の中間評価の報告について
-

役員会（令和4年1月24日）

議 案・国立大学法人北海道大学業務方法書の変更について

- ・社会連携に関する基本方針の制定及び広報室の改組について
- ・取引銀行（メインバンク）の選定について
- ・アンビシャス特別助教制度について

報告事項・時間外労働実績について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院トランスレーショナルリサーチ推進室特殊検査受託規程

(令和4年2月1日海大達第12号)

大学院獣医学研究院附属動物病院トランスレーショナルリサーチ推進室において、臨床研究の推進に資するために実施している特殊検査について、学外機関からの依頼については、都度、受託研究契約を締結しているところ、本取組を発展的かつ効率的に実施するため、受託事業として実施することに伴い、所要の定めを行ったものです。

■表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
4.1.13	駐日パキスタン・イスラム共和国大使館 Imtiaz Ahmad 特命全権大使	今後の交流に関する懇談



Imtiaz Ahmad 駐日パキスタン・イスラム共和国
特命全権大使（中央右）

（国際部国際連携課）

■人事

令和4年2月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【総長補佐】 (期間：令和4年3月31日まで)	LA FAY MICHELLE KAY	大学院文学研究院准教授

訃報

名誉教授 かなおか ゆういち 金岡 祐一 氏
(享年94歳)



名誉教授 金岡祐一 先生は令和3年5月24日にご逝去されました。

金岡先生は昭和3年2月25日に富山市に生まれ、昭和25年3月東京大学医学部薬学科卒業、昭和27年3月同大学大学院化学系研究科薬学専門課程修士課程を修了、昭和30年3月同専攻博士課程を単位取得退学し、同年10月同大学医学部薬学科助手に任用されました。

昭和31年4月、新設の北海道大学医学部薬学科講師として着任され、昭和32年5月には同学科の助教授に昇任されました。昭和34年5月には東京大学から薬学博士の学位を授与されました。昭和34年9月から1年6か月間、

アメリカ国立健康研究所（NIH）で在外研究に従事されました。昭和41年4月には北海道大学薬学部教授に昇任され、新設の薬品合成化学講座を担当、平成3年3月定年退官され、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。この間、先生は多くの学部学生・大学院学生の教育と研究指導に当たられました。

研究面では、北海道大学赴任以来のモットーである「フロンティア精神の推進」を実践され、日本の生物有機化学研究のパイオニアとして、世界を股にかけて活躍されました。

生命科学の薬学的展開を標榜されたその研究内容は、生体機能解析のための新規蛍光試薬の開発をはじめ、酵素タンパク質の構造と動的新機能の解明、アミド・イミドカルボニル化合物の光化学反応を活用した合成化学的応用展開、神経系レセプターとイオンチャネルの構造と機能の解明、新しい化学修飾法・光アフィニティラベル法を活用した生体関連物質の機能解析など、多岐に亘り、数々の先駆的研究を展開されました。

これらの研究はその成果と相俟って

高い評価を受け、日本薬学会奨励賞、日本薬学会アボット奨学金、日本薬学会学術賞、日本光化学協会貢献賞、世界薬学連合（FIP）2000年世界薬学会議・20世紀を代表する薬学者賞を受賞されました。

学内では、評議員、薬学部長、薬学研究科長、薬学部附属薬用植物園長を歴任された後、廃止の危機に直面した北海道大学触媒研究所の改組に奔走されて、平成2年から1年間、新設の触媒化学研究センター長を務められ、また学外では、日本薬学会会頭、文部省学術審議会専門委員、同大学設置審議会専門委員、同高等教育局薬学視学委員、日本学術会議第七部部長、日本医歯薬アカデミー名誉会長など、数々の要職を務められました。

平成10年には日本薬学会名誉会員に推挙され、平成28年には瑞宝中綬章を受賞されました。

先生の長年に亘るご功績に敬意を表し、多大なるご貢献に感謝申し上げ、謹んでご冥福をお祈り致します。

(薬学研究院・薬学部)

名誉教授 いとう かずひこ 伊藤 和彦 氏
(享年80歳)



名誉教授 伊藤和彦 先生は、令和3年12月25日にご逝去されました。

伊藤先生は、昭和16年4月15日に北海道札幌市に生まれ、昭和41年3月に北海道大学農学部農業工学科を卒業、同年4月に北海道大学農学部助手に採用され、昭和54年7月には助教授、昭和61年4月には教授に昇任され、平成11年4月に北海道大学大学院農学研究

科教授に配置換となりました。

この間、平成8年6月から平成9年10月まで北海道大学総長補佐、平成14年4月から平成16年3月までは北海道大学評議員を務められ、平成17年3月に定年により退職され、同年4月に北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

伊藤先生は、米麦関連の乾燥調製技術の研究開発を継続的に進められ、低温外気を用いたもみの高品質貯蔵法の開発に関する研究は実用化に至り、現在北海道内各地で利用されています。

さらに、青果物の品質保持法に関する研究を幅広く行われました。北海道の主要農産物であるタマネギ、メロン、ジャガイモ、ナガイモ、トマト、グリーンアスパラガス、イチゴ等を取り上げ、温度・湿度、空気組成と品質(鮮度)保持期間との関係を明らかにして、品質保持期間の延長を目指し、低

温高湿度条件下での農産物の貯蔵法(特許、平成13年化学工学会技術賞受賞)、エチレンを用いたジャガイモの萌芽抑制法、低温操作によるジャガイモのビタミンCの増加法等の実用性の高い新たな研究成果を発表されました。

また、近赤外分光法を用いた農産物の成分(品質)測定に関する研究を先駆的に進められ、米麦や乳等を対象として現在実用化に至っている技術の基盤的研究を進められました。食品の殺菌に関する研究も進め、通電加熱による液体食品の殺菌、強酸性電解水を用いたカット野菜の研究の先駆的な存在となりました。

伊藤先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大な貢献に感謝申し上げ、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(農学院・農学研究院・農学部)

編集メモ

- 2月5日（土）から6日（日）にかけて、札幌では24時間で60cmも雪が降り、記録的な大雪となりました。除雪作業が間に合わず、札幌発着の列車が運休することとなったため、お困りの方も多かったのではないでしょう



雪で埋まっている南門の様子

か。札幌キャンパスもこんなに雪深くなりました。まだまだ寒い季節は続きます。通勤・通学時は暖かくして、足元に注意して歩きましょう。



5日（土）のキャンパスの様子

- 2月14日（月）、感染症対策を講じながら、本学と株式会社ルピシアが共同で製作しているオリジナルティーの選定会が開催されました。フルーツの甘酸っぱい香りに包まれた会場で、茶葉の味を一杯ずつ確かめる参加者。製作に

携わった学生たちも、別会場で選定に頭を悩ませていました。商品化まであと一步、続報を楽しみにお待ちしております。



感染対策を講じた会場の様子



選定の様子

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は百年記念会館です。1977年、創基100周年記念事業の一環として寄附金により建設されました。2階ロビーでは本学の沿革史展示が行われています。北大の歩みに思いを馳せながら、自然豊かな風景にほっと息をつく。過去と現在が交差する、かけがえのない場となっています。

キャンパス風景 23 百年記念会館（北9条西7丁目）



北大時報 ② No.815 令和4年2月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>